

## ポーランド研究のための基本文献

### <事典>

- ・伊東孝之、直野敦、萩原直、南塚信吾、柴宜弘（監修）『[東欧を知る事典](#)』（新訂増補版）平凡社、2001年  
ポーランドを含む中・東欧諸国の情報が結集した一冊である。東欧民主化の直後に出版された [初版\(1993年\)](#) に最新の動向が追加された増補版。文献ガイドも豊富である。

### <入門書>

- ・渡辺克義（編著）『[ポーランドを知るための60章](#)』明石書店、2001年  
政治、経済、歴史、芸術、生活、対日関係 etc.の諸分野にまたがる全60の短い各章がポーランドの特質を多面的に紹介する。巻末に文献ガイドあり。
- ・渡辺克義（編）『[ポーランド学を学ぶ人のために](#)』世界思想社、2007年  
上述の書と同様、多方面からポーランドにアプローチを試みる入門書であるが、より専門性が高い。最終章では日本でのポーランド研究史が整理されている。

### <シリーズ>

- ・『[ポロニカ](#)』恒文社、1990年 - 1994年（全5冊）  
文学を中心にポーランド文化に特化した定期刊行物である。  
★図書館所蔵は、1巻のみ
- ・『[フォーラム・ポーランド会議録](#)』ふくろう出版、2005年 -  
「フォーラム・ポーランド組織委員会」が年毎に異なるテーマで開催する会議（講演会）の記録。

### <通史>

- ・S.キェニエーヴィチ、加藤 一夫、水島孝生（訳）『ポーランド史』恒文社、1996年  
★図書館では [初版\(1986年刊行\)](#) を所蔵  
日本語で読めるポーランドの通史の中では最もボリュームに富み、詳しい。中近世と近現代で上下巻に分かれている。
- ・伊東 孝之、中井 和夫、井内 敏夫（編）『[ポーランド・ウクライナ・バルト史](#)』新版（世界各国史20）山川出版社、1998年  
ポーランドを中心に置きつつ、かつて「歴史的ポーランド」を構成していたウクライナやリトアニア等の歴史を併せて記述。ポーランドと旧ソ連にまたがるこのような地域的枠組みでの通史としては日本で最初のものである。
- ・J.ルコフスキ、H.ザヴァツキ、河野肇（訳）『[ポーランドの歴史](#)』（ケンブリッジ版世界各国史5）創土社、2007年

ケンブリッジ大学出版局が刊行する各国史の日本語訳。ケニエーヴィチの通史にみられるような詳細な分析はなく大まかな流れがつかみやすい。

- ・伊東孝之『[ポーランド現代史](#)』（世界現代史 27）山川出版社、1988年  
国家と市民社会との関係を軸に考察されたポーランドの現代史。
- ・A.ガルリツキ、渡辺克義、田口雅弘、吉岡潤（監訳）『[ポーランドの高校歴史教科書：現代史](#)』（世界の教科書シリーズ 12）明石書店、2005年  
第二次世界大戦から EU 加盟前夜までをカバーする。高校教科書とはいえ大変な分量であり、ポーランドの学校教育の現状を垣間見ることできる。

#### <専門書・研究文献>

- ・S.ケニエーヴィチ、阪東宏（訳）『[歴史家と民族意識：ポーランドの民族的伝統についての省察](#)』未来社、1989年  
歴史家ケニエーヴィチ著の論文集。分割期ポーランドにおける民族意識の形成と歴史研究の役割について主に論じられる。
- ・阪東宏（編）『[ポーランド史論集](#)』三省堂、1997年  
★図書館では [初版（1996年刊行）](#) を所蔵
- ・中山昭吉、松川克彦（編）『[ヨーロッパ史研究の新地平：ポーランドからのまなざし](#)』昭和堂、2000年  
日本におけるポーランド史研究者の層は比較的厚く、主な研究文献だけでも枚挙にいとまがない。ここでは日本の主要なポーランド史研究者が名を連ねる論集二冊を挙げるにとどめる。
- ・C.ミウォシュ（関口時正・西成彦・沼野充義・長谷見一雄・森安達也訳）『[ポーランド文学史](#)』未知谷、2006年  
ポーランドを代表する詩人がアメリカの大学で行った講義ノートをもとにまとめた文学史概説。中世から社会主義時代（亡命文学も含む）までをカバーする大著。
- ・田村進『[ポーランド音楽史](#)』雄山閣出版、増補改訂版、1991年  
中世音楽から前衛音楽まで、世界的に知られた作曲家・演奏家から民謡・民族舞踊まで、広範囲を扱った通史。
- ・M.ハルトフ、西野常夫、渡辺克義（訳）『[ポーランド映画史](#)』凱風社、2006年  
ポーランド映画の黎明期から体制転換後の2000年代に至るまでの、ポーランドにおける映像表現の歴史。
- ・E.パワシュエルトコフスカ、A.T.ロメル、柴理子（訳）『[日本・ポーランド関係史](#)』彩流社、2009年
- ・阪東宏『[世界のなかの日本・ポーランド関係:1931-1945](#)』大月書店、2004年  
20世紀前半の国際情勢（特にロシア・ソ連、ドイツの動向）に連動して展開された日本とポーランドの外交関係を詳らかにする二冊。

(2013年10月 福島千穂)